



謙虚に学び、感謝する心を

●
金川千尋 Chihiro KANAGAWA

信越化学工業株式会社 代表取締役会長



難しい外交問題に直面した2012年はオリンピックの年でもありました。金メダルを獲得し日の丸を一番高いところに掲げる。それは、苦しい毎日の鍛錬を積み重ねることができ才能を持った人だけが到達できる頂です。学生時代、柔道に熱中した私は、オリンピックでは毎回柔道に注目しています。最近の国際試合では「勝てば良い」という風潮がありますが、私は違和感を覚えます。シドニーオリンピック柔道金メダリストで、ロンドンオリンピックの強化コーチを務めた井上康生さんとお話しする機会がありました。知的で礼儀正しい井上さんが「柔道は相手があり初めて成り立つ競技です。試合に勝っても相手への『感謝』の気持ちを持つことが大切です」と仰っていたのが印象的でした。そして、「謙虚」と「感謝」、この2つの美しい日本の言葉が心に浮かびました。井上さんは指導者として日本柔道の伝統を大切にしつつ、新しいものを取り入れながら強化に取り組まれています。

暑い夏が過ぎ去り訪れた秋の日に「山中伸弥教授がノーベル医学生理学賞を受賞」という朗報が届きました。難病の治療につながる画期的な発明にたどり着くまで、想像を超えたご苦勞の連続であったことでしょう。山中先生は記者会見で「日本、日の丸の支援がなければ、こんなに素晴らしい賞を受賞できませんでした。まさに日本が受賞した賞。感想は一言で『感謝』という言葉しかありません」と話されていました。このときも「謙虚」と「感謝」という日本語が心に浮かびました。スポーツでも科学の世界でも頂点を極めた人には共通する部分があるようです。

ノーベル賞受賞者を最も多く輩出しているのがアメリカです。何か秘訣があるのでしょうか。私は1973年にアメリカで塩ビ樹脂を生産するシンテック社を起業しました。同社の経営を通じて学んだことは、事業を行う上でアメリカほど自由な国はないということです。競争は極めて厳しいものの、外国企業だからといって不利になることは一切ありません。公正な競争社会、これがアメリカの強さであり、多くのノーベル賞受賞者を生み出す土壌になっているのではないのでしょうか。

歴史が示すとおり、アメリカは困難に直面しても自らの力で克服する力を持っています。「問題を自らの力で克服し、より高みに達する」、この積み重ねによりアメリカは発展を遂げてきました。天然ガスの価格が高騰し「アメリカでは化学事業をできない」という意見が大勢を占める中、2004年に私はアメリカで2,500億円の投資を行う決断をしました。事業を通じてアメリカという国の強さに揺るぎない信頼を持っていたからです。その後、シェールガスの採掘技術を開発し、アメリカは天然ガスの問題を見事に解決しました。40年前、信越化学の社長でありました小田切新太郎さんの温かいご理解とご支援によりシンテック社は生まれました。世界最大の塩ビメーカーとなったシンテック社をさらに強くすることが、私に事業を行う素晴らしい機会を与えてくれました小田切さんとアメリカへのご恩返しです。

日本に元気がないといわれているようですが、私は決して悲観していません。ご恩をいただいた方への感謝の気持ちを持ち、優れた人や国から謙虚に学び、直面する問題に取り組むことでさらに高みに達することができると思います。そのためには、1日1日を大切に生きる。今日やるべきことに全力で取り組む。それを毎日積み重ねていくこと。私はこれからもそうしていきたいと思います。